

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成28年度病虫害発生予報第2号(5月)について

このことについて、病虫害発生予報第2号を発表したので送付します。

予報第2号

麦類赤かび病防除の徹底を！

本年の麦類の出穂期は平年より早く、既に1回目の防除は行われているところがあるかと思えます。

麦類の生育は、気象条件等により変動が大きく、出穂期の最速日と最終日では20日以上の開きがあるとされていますので、各ほ場で確認のうえ適期防除に努めましょう。

今後の気象予報では、平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予測されていますので、今後の気象に留意し必要に応じて追加防除に努めましょう。



小麦赤かび病

ナシ黒星病防除の徹底を！

ナシ黒星病は昨年多発し、今年も県内の多くの産地で発生しています。本病の感染に影響する降雨は、今後1か月やや多いと予測されているため、発生の増加が懸念されます。以下の対策を徹底し、黒星病の発生を防ぎましょう。

- ①発病葉と発病果の園外への持ち出し。
- ②薬剤防除の徹底。



葉柄に発生した黒星病



幼果に発生した黒星病

<予想される向こう1か月の天候（平成28年4月30日～平成28年5月29日）>

天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並みか多く、日照時間はほぼ平年並でしょう。

週別の気温は、1～2週目は平年より高く、3～4週目は平年並か高いでしょう。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間（数値は予想される出現確率）

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低10 並20 高70% 高い見込み	少20 並40 多40% 平年並か多い見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み

（福岡管区气象台 平成28年4月28日発表抜粋）

5月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
カンキツ	そうか病	やや少	やや少	やや多
ナシ	黒星病	並	やや多	やや少
カキ	フジコナカイガラムシ	並	並	並
果樹共通	チャバネアオカメムシ	—	—	並
茶	カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ	多 やや少	多 少	多 並

*果樹共通・チャバネアオカメムシの平年比について、現況は年次変動が大きいいため前年比としている

作物別発生予報

注1) 予報の発生量は平年（福岡県の過去10年間）及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

注2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

それぞれの条件は、少発生（－）、やや少発生（－～±）、並発生（±）、やや多発生（±～＋）、多発生（＋）として示し、＋－を総合的に判断して発生量を予想しています。

【果樹：かんきつ】

1 そうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

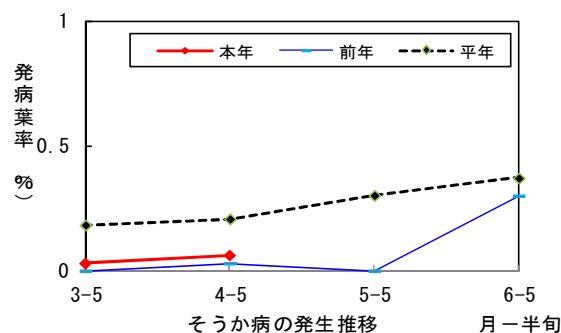
ア 4月5半月調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（－～±）。

発病葉率 0.06%（平年 0.2%、前年 0.03%）

発生ほ場率 9.1%（平年 15.6%、前年 9.1%）

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている（±）。

(3) 防除上注意すべき事項



- ア 落花直後に灰色かび病、黒点病との同時防除を実施する。
- イ 罹病葉は見つけ次第除去する。
- ウ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 6の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。

【果樹：なし】

1 黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 0.1% (平年0.1%、前年0.1%)

発生ほ場率 9.1% (平年10.7%、前年18.2%)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±~+)。

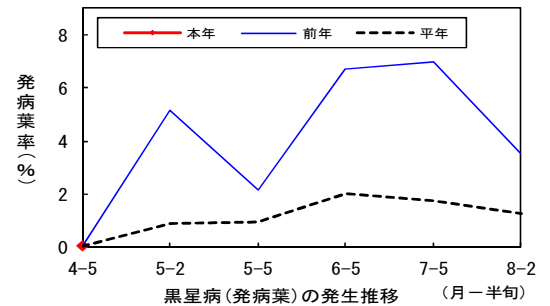
(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病葉や罹病果実は、見つけ次第除去し園外に持ち出す。

イ 必要に応じて補正防除を実施する。

ウ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける。

エ 薬剤防除にDMI剤を用いる場合は、保護殺菌剤を混合する。ただし、有機銅剤は効果が低下するため混用しない。



【果樹：かき】

1 フジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生枝率 2.1% (平年 2.6%、前年 3.8%)

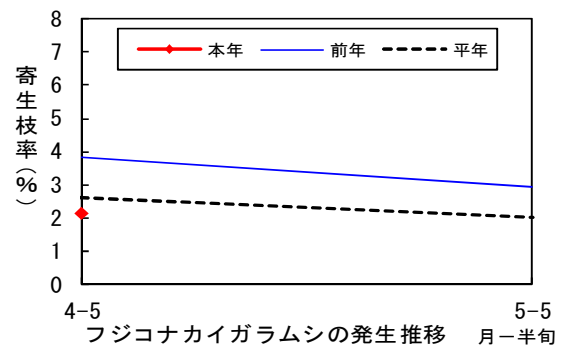
発生ほ場率 75.0% (平年 48.1%、前年 58.3%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 天敵への影響が比較的少ない薬剤で防除する。防除対策の詳細は、県ホームページに掲載している『病害虫・雑草防除の手引き』を参考にして下さい。

URL : http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/203227_51694561_misc.pdf



【果樹共通：チャバネアオカメムシ】

(1) 予報の内容

発生量：前年並、前々年より少

(2) 予報の根拠

チャバネアオカメムシの1㎡当たりの越冬量は平均0.8頭(前年0.9頭、前々年4.8頭)で、前年並である(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になるので、気温の推移や地域の予察灯の誘殺状況を確認する。

イ ウメ、モモ、スモモ、ナシ、カンキツ等では、園内の発生状況の把握に努め発生に応じて防除を行う。

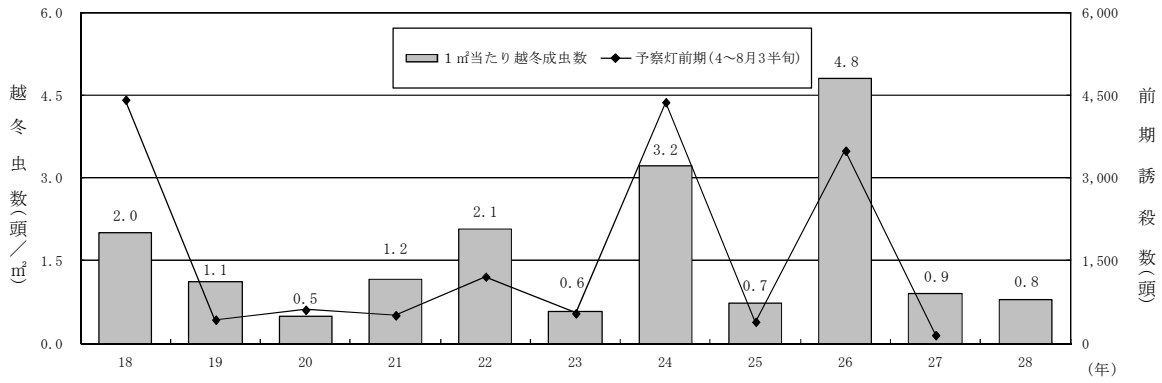


図1 チャバネアオカメムシの1㎡当たり越冬成虫数と予察灯による前期(4~8月3半旬) 誘殺数の年次 推移

注)予察灯による誘殺数は、県下6カ所平均。

【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ アブラムシ類	並	並	やや多	・ミカンハモグリガやハマキムシ類との同時防除を行う。
ミカンハダニ	並	並	並	
なし 赤星病	多	多	並	・赤星病の小生子飛散はほぼ終息していると思われるが、ビャクシン上の降雨でぬれにくい場所に冬胞子堆がある場合は、降雨後に小生子が飛散する可能性が高いので注意が必要である。
アブラムシ類	やや少	やや少	並	

【茶】

1 カンザワハダニ

平成 28 年 4 月 27 日付け 28 農林試第 411 号技術情報第 1 号参照。

2 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかつた(一～±)。

たたき落とし虫数 0.8 頭(平年 1.7 頭、前年 1.3 頭)

発生ほ場率 66.7%(平年：60.4%、前年 50.0%)

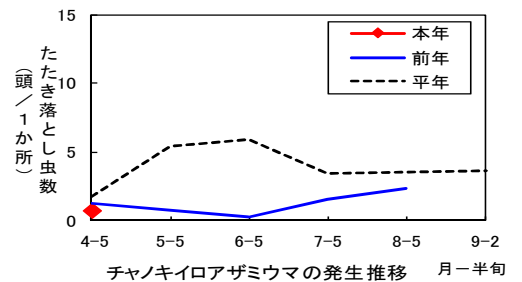
イ 向こう1か月の気象予報では、やや少発生条件となっている(一～±)。

(3) 防除上の注意

ア 一部では多発生している茶園も見られることから、発生状況に注意し、たたき落とし(B 5 判上)で10 頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。

ウ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 6 の内容を確認の上、適切に実施する(以下の病害虫についても同様)。



【茶：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
チャノミドリヒメヨコバイ	並	やや少	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・発生状況に注意し、たたき落とし（B 5判上）で4頭以上発生している場合は防除を行う。 ・一番茶摘採後、又は二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。
チャトゲコナジラミ	多	やや多	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・チャトゲコナジラミは年3～4回発生し、防除適期は若齢幼虫発生期で、親世代成虫の発生が収まった頃である。第一世代幼虫の防除適期は例年平坦地では5月中旬頃、山間地では5月下旬頃になっている。 配信される技術情報や茶園での成虫の発生状況に注意して防除に努める。 ・幼虫は葉裏に寄生しているので、農薬の散布にあたっては、葉裏に十分にかかるように丁寧に散布する。

農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

○有効期限切れの農薬は使用せずに、産業廃棄物として処分する。

2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフト低減ノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しました。
携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。



福岡県病害虫防除所